第３節　中学３年生

国際理解と平和
―被爆体験の継承―

川　田　基　生・原　　順　子
加　藤　直　志・大　林　直　美
徳　地　沙紀子

【抄録】 中学３年生総合人間科では「国際理解と平和　――　被爆体験の継承　――　」というテーマのもとに広島でのフィールドワークを軸とする平和学習をおこなった。名古屋地区での戦争体験の聞取り調査、当時の生活感情の理解のための『昭和万葉集』鑑賞と和歌創作の会、戦時食生活の追体験としてのすいとん調理と試食、広島原爆被害事前研究、広島でのフィールドワークおよび被爆証言の聞取り、研究結果の発表会および研究集録の編集と発行が主な内容である。

【キーワード】 平和学習　広島　フィールドワーク　被爆証言の継承

1. 目標

⑴テーマ　国際理解と平和
サブテーマ　被爆体験の継承

⑵学年目標
１）戦争中・戦後の暮らしから平和を考える
２）国際的な視点からヒロシマをとらえる
３）被爆体験の確かな継承を目ざす

⑶伸ばしたい力
１）共同的に探究する力
２）科学的な探究心
３）深い理解
４）豊かな表現力
５）意見交換する力

2. 活動内容

⑴戦争中の暮らしについての聞き取り調査
⑵暮らしに注目した複数教科からの現代史学習
⑶広島事前研究
⑷広島研究旅行
⑸研究発表会および研究集録の発行

3. 評価方法

⑴教員による評価
⑵生徒による自己評価
⑶友達による評価
Ⓐ学校全体　ＳＳＨ　評価部会　事前・事後アンケート
Ⓑ学年　タイムリーな助言等　形成的評価
Ⓒ個人への文章形式のコメント

4. 系統性

個人研究が中心であった前年度の達成を基礎としてグループ研究の深まり、広がりを目ざしたい（昨年度の同学年との相違は学年目標に示した視点の変化）

5. 活動内容

春休み課題
　　聞取り調査
　　戦争中の暮らし
第１回　４月14日
　　調査結果の発表会
　　SHOW & TELL
　　一分間スピーチ
第２回　４月16日
　　オリエンテーション
　　事前アンケート
　　目標　年間計画
　　広島下見報告
第３回　５月14日
　　『昭和万葉集』鑑賞
　　平和のための和歌と俳句の会
第４回　５月28日

「戦争中の暮らし」
すいとんの調理と試食
第５回　６月11日
研究班決定
第６回　７月２日
研究テーマ
フィールドワーク先検討
第７回　９月10日
アポイントメント取り
事前学習
第８回　10月　１日
訪問先決定
第９回　10月22日
事前研究
第10回　11月５日
事前研究発表会
12日～14日　広島研究旅行
第11回　11月26日
研究集録　原稿作成
第12回　１月21日
フィールドワーク研究発表会
第13回　３月４日
まとめ　感想文

広島研究旅行　テーマと訪問先

Ａ１班
テーマ　被爆者への差別
訪問先　被曝証言の会
Ａ２班
テーマ
Atomic bomb seen from USA
――アメリカから見た原爆――
訪問先　広島平和文化センター
Ａ３班
テーマ
原爆が広島から奪ったもの
訪問先　広島市原爆被爆者協議会
Ａ４班
テーマ
50年以上たった今やっていること
訪問先
広島大学平和科学研究センター
Ａ５班
テーマ
各国から見た広島
原爆についての捉え方の違い
訪問先
広島市立大学広島平和研究所
Ｂ１班
テーマ
放射線を受けた生物の被害
訪問先
広島大学原爆放射線医科学研究所
Ｂ２班
テーマ
放射線の生態系への影響について
訪問先
我々の宿泊先のホテルに来ていただく
Ｂ３班
テーマ
原爆症について
訪問先
国立広島原爆死亡者追悼平和祈念館
Ｂ４班
テーマ
原爆症について
訪問先
広島県原爆被害者団体協議会
Ｂ５班
テーマ
原爆の被害
（ヒトについて　原爆症etc）
訪問先
原爆被害者福祉センター広島平和会館

6. 成果と課題

事前調査　４月16日
事後調査　３月４日

仮説１　「戦中･戦後の暮らしから平和を考える」ことができるようになる

ⅰ明確にわかっている
事前　５％　事後　15％
ⅱかなりの程度わかっている
事前　7.5％　事後　44％
ⅲだいたいわかっている
事前　30％　事後　28％
ⅳ少しわかっている
事前　50％　事後　10％
ⅴ考えたことはない
事前　7.5％　事後　３％

広島での被爆証言の聞取り、研究発表会での他の班の発表、戦時中の食事の追体験、暮らしの手帳社編『戦争中の暮らしの記録』の読書等によりかなりの達成があったとしたい。

仮説２　「国際的視野からヒロシマをとらえる」ことができるようになる

ⅰ明確に
　事前　2.5%　事後　28%
ⅱかなりの程度
　事前　0％　事後　31%
ⅲだいたい
　事前　20%　事後　28%
ⅳ少し
　事前　50%　事後　5％
ⅴ考えたことはない
　事前　27.5%　事後　8％

広島でのフィールドワークは班別であり、「アメリカから見た原爆」というテーマであったＡ組２班（７人）はⅰが58%（４人）ⅲが28%（２人）ⅴが14%（１人）逆に「放射線の生態系への影響」をテーマとしたＢ組２班のこの項目の回答の数値は低い。

仮説３　被爆体験を確かに継承

ⅰ明確に
　事前　0％　事後　28%
ⅱかなりの程度
　事前　7.5%　事後　41%
ⅲだいたい
　事前　15%　事後　20%
ⅳ少し
　事前　47.5%　事後　8％
ⅴまったく継承していない
　事前　26.5%　事後　3％

「確かな」という表現の質問に対し、事前調査では０％の回答であったが、事後調査では肯定的な回答が著しく増加した。広島の被爆証言者の皆さんの熱意が主な要因と考えられる。

仮説４　共同して探究する力が改善される

ⅰ満足すべき水準にある
　事前　7．5%　事後　10%
ⅱかなりの程度やれる
　事前　12．5%　事後　43%
ⅲだいたいやれる
　事前　50%　事後　36%
ⅳやや力不足
　事前　25%　事後　8％
ⅴそのようなことはやれない
　事前　5％　事後　3％

事後の記述式アンケートの回答にはほとんどの生徒が共同学習について「がんばれた」と書いている。「初めての班学習なので共同して探求はできたのでがんばれた」。この学年も１年生、２年生の時期に班で話し合う機会はあったと思われるが、共同学習が中心的課題とされ、それに向かってゆく意識が初めてなのであろうか。

仮説５　科学的探究心が育まれる

ⅰ満足すべき水準にある
　事前　10%　事後　10%
ⅱかなりの程度
　事前　22.5%　事後　33%
ⅲだいたい
　事前　40%　事後　41%
ⅳやや不足
　事前　22.5%　事後　13%
ⅴそのようなものはない
　事前　5％　事後　3％

他の項目と比較すると事前・事後の変化が少ない。中学３年のテーマは平和学であり、「科学的」であることは大事ではあるが最終的なゴールではない。記述式アンケートのこの項目には「意見交換の力はついた」「核兵器についてのニュースに敏感になった」などの記載があった。

仮説６　豊かな表現力がつく

ⅰ満足すべき水準にある
　事前　5％　事後　15%
ⅱかなりの程度
　事前　17.5%　事後　28%
ⅲ一応の水準
　事前　42.5%　事後　41%
ⅳやや不足
　事前　27.5%　事後　13%
ⅴそのようなものはない
　事前　7.5%　事後　3％

中学２年までの段階で国語科の指導があったのか、この学年の生徒は全員俳句をつくることができる。５月には「平和」を題として和歌と俳句の会をもつことができた。４月の発表会ではひとりの持ち時間を60秒としたが全員、春休みの聞取り調査の結果を60秒で報告することができた。その後の研究発表は時間をふやす設定としたが、どれも満足すべき水準であった。この学年の生徒の表現力は特筆すべき水準に達していると報告したい。

（文責　川田基生）